

令和5年度 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動の取組と自己評価

【学習指導】

- ① 習熟度別授業や少人数授業の実施方法等の工夫を行うとともに、興味関心をさらに深める学習の追究を行った。また、2学期に授業相互参観(他教科を含む)の実施を通して授業改善を推進し、生徒一人一人の個性・能力に応じた授業を展開した。
- ② 教科会を活性化させるとともに教科間の連携を図り、新学習指導要領に応じた授業計画を作成し、学力向上スパイラルの深化を図った。また、観点別評価の実施及び検証を行い、総合的な学力の成果分析・検証等を実施した。
- ③ 実用英語技能検定、漢字検定等の資格取得の奨励を行い、CEFR A2以上の取得者の増加に繋がった。
- ④ 土曜・長期休業日中の夏期講習等を展開し、基礎的・基本的な学力の定着と応用力の育成を図った。また、習熟度に応じた講習や希望進路実現に向けた系統的な学習指導を全校体制で行った。
- ⑤ 個に応じた選択科目履修指導を行い、科目の帯の検討・改善を行った。また、学習の準備(予習・復習)の徹底や週末課題の提示、自習教室等の設置により、学習を習慣化させる指導の充実を推進し、授業外の学習時間の確保と増加を図った。
- ⑥ 学校設定教科・科目の開発・充実に積極的に取組み、系列の特色を打ち出すとともに、時代を見据えた教育課程を編成し、生徒一人一人の知的好奇心を引き出す教育を推進した。
- ⑦ 授業等を通して、積極的に読書に親しむ指導を進めるとともに、図書館を有効活用するなどして新たな発見や感動に出会うことができる機会の充実を図り、課題研究及び探究活動の促進を行った。

【進路指導】

- ① 高大連携を結び、生徒の進路実現に向けた取組を行った。また、進路先の選択決定に、生徒がチャレンジ精神をもって取組めるよう、組織的に全教職員でガイダンスや個人・保護者面談等の充実に取組んだ。
- ② キャリアカウンセラー及び総合学科推進部を中心として、生徒の希望進路実現に向けた科目選択を全職員で支援するとともに、キャリア・コア、学習成果発表会、課題研究発表会の指導内容・方法の研究及び改善を行った。また、総合的な学力を必要とする調査研究活動や課題研究への取組を充実させ、本校の特色としてのキャリア教育の充実を希望進路実現に結びつけた。
- ③ 葛飾区との「相互連携協定」をもとに、中高生交流事業の推進、中高連携事業、東京都総合学科高等学校教育活動成果発表会(12月)への積極的参画を推進して、生徒の学習活動へのモチベーションの維持・向上と社会との連携を行った。
- ④ 生徒一人一人に個性・能力を発見させるとともに、働くことや学び続けることへの意義を理解させ、生徒がチャレンジ精神をもって自分探しができるように指導を行った。また、より高い希望進路を目指す指導内容を実践した。

【生活指導】

- ① 生活指導統一基準に基づく指導の徹底を図るとともに、「規律正しい高校生活」の定着を行った。それに伴い、内規等の整備を実施した。
- ② 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」を生活指導の基本とし、全教員の共通理解の下で、遅刻指導・身だしなみ指導、挨拶運動等を行い、自主自律の精神及び社会貢献の心を育んだ。基本的な生活習慣の定着について徹底した指導を行った。

- ③ 安全指導の観点から、自転車登校への指導を強化し、スクールサポーターとも連携し、校外における立ち番指導を実施した。ヘルメットの購入、及び乗車時の着用の指導を実施した。
- ④ 自主自律の中核としてノーチャイム制の一層の定着を図るとともに、学校全体で組織的に授業規律を確立した。
- ⑤ 生徒支援連絡会（兼：学校いじめの対策委員会）を中心に、情報共有するとともに校内研修会を充実させる等、学校全体として組織的に行い、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底した。また、子供家庭支援センター、特別教育心理士等の外部機関との連携も強化し、教育相談体制の整備を行った。都立版エリアネットワークとの連携を行い、特別支援教育を推進し、個に応じた支援体制を整えた。
- ⑥ 生徒主体の学校行事、生徒会、部活動等の実現のため支援体制を強化するとともに学校運営への参画意識の醸成を行った。

【特別活動・部活動】

- ① 生徒が活躍する場面をさらに拡大し、生徒会や部活動、学校行事等の運営に関わる教育活動を通して、生徒の自主性や社会性を育成するとともに、愛校心やコミュニケーション能力、協調性などを育んだ。
- ② 部活動の一層の活性化に向けて、その成果を HP や学年だよりなどで、紹介した。HP の部活動紹介についてリニューアルを行った。

【募集・広報活動】

- ① 学校見学会や学校説明会、中学校訪問等の実施方法の工夫、学校だよりやHPの更新をスムーズに行った。開校以来の制服の変更を行い LBGQTQ への対応、及び新たな学校の流れを発信し、本校の特色を広く中学生・保護者に周知した。
- ② 本校設立の理念を実現する視点をもとに、総合学科の魅力を発信し、本校で学びたい中学生を獲得することができた。文化・スポーツ等特別推薦を導入した。

【健康づくり】

- ① スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の整備や生徒支援連絡会等の充実を図るとともに、個人情報管理の徹底を図りつつ、生徒指導に関わる必要情報の共有化を推進し、よりきめ細やかな生徒指導体制を実現した。また、今年度は外部との連携をさらに強化し、生徒一人一人に応じた支援を行うことができた。
- ② 保健委員会活動の充実を図るとともに、スクールカウンセラー等の専門家による全員面談の実施等、学校保健活動の充実を図り、心身の健康教育を推進した。
- ③ 日々の清掃活動の状況を把握・提示する等校内美化を一層徹底するとともに、美化だより等の継続的発行や生徒委員会活動の充実により、組織的な校内美化活動を推進した。また、経営企画室と連携し、校庭の整備等、潤いある校内環境づくりに積極的に取組んだ。
- ④ 体育理論の指導を更に充実させ、体育の授業における自己やチームの体力向上 PDCA サイクルを確立した。東京都統一体力テストを円滑に実施し、テスト結果を活用して体力の向上を図った。

【学校経営】

- ① 生徒、教職員の活気あふれる学校を目指して、主体的・対話的で深い仕事の推進を行った。また、一人一連携の取組で、前例にとらわれない挑戦的・革新的な仕事への取組を推進した。
- ② 教職員が一体となった円滑な教育活動の実現と課題解決に向けて、個人情報徹底管理等による事故の未然防止に努め、情報の共有化を一層推進し、企画調整会議を中核にした組織的で PDCA に

基づいた学校運営を図った。

- ③ 職層に応じた職務遂行やO J T推進のため、分掌等内O J Tや授業相互参観、O J Tのための校内研修会の充実を図り人材育成を推進した。
- ④ 道徳心や社会性を育成する視点も踏まえて地域連携や地域貢献を重視した活動を継続して実施し、葛飾区との「相互連携協定」に基づく中高生交流事業を推進した。
- ⑤ 地域と連携した防災訓練を実施し、震災等にかかわる校内防災体制の整備や防災マニュアル等の周知徹底を図るとともに、生徒に対して訓練の意義を周知し、生徒が安全で安心できる学校づくりを行った。
- ⑥ 四半期毎の予算の執行・管理や予算編成指針に応じた予算編成等を通じた学校経営計画の推進、窓口対応や校内美化の充実等を通して開かれた学校づくりやP Rの充実等、行政感覚を一層学校経営に生かした取組を推進した。

(2) 重点目標と方策、数値目標

- ① 興味関心をさらに深める学習を通して、希望進路実現に必要な学力の向上を目指す。

◇数値目標

すべての科目の授業評価アンケートにおいて「もっと学習したくなる授業」：90%

すべての科目の授業評価アンケートにおいて「しっかり準備をして授業に臨んでいる」：90%

【今年度の結果】

「もっと学習したくなる授業」：96%

「しっかり準備をして授業に臨んでいる」：94%

- ② 生徒一人一人の可能性を最大限に引き出し、希望進路の実現を支援する。

◇数値目標

3年次生の進路活動に対する充実感：90%

CC1・2・3の授業に対する充実感：90%

【今年度の結果】

3年次生の進路活動に対する充実感：82%

CC1・2・3の授業に対する充実感：80%

- ③ 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」を基本とし、豊かな人間性を育成する。

◇数値目標

学校行事満足度：80%

部活動充実度：90%

校内美化活動への貢献度：80%

【今年度の結果】

学校行事満足度：80%

部活動充実度：80%

校内美化活動への貢献度：65%

- ④ 生徒、教職員の笑顔があふれる学校を目指して。

◇数値目標

生徒、保護者 葛総に入学して良かった：90%

地域 葛総の生徒は楽しそうに学校に通っている：80%

教職員 専門分野を活かした地域連携、一人一連携、充実した一年を過ごした：80%

【今年度の結果】

生徒、保護者 葛総に入学して良かった：85%

地域 葛総の生徒は楽しそうに学校に通っている：83%

教職員 専門分野を活かした地域連携、一人一連携、充実した一年を過ごした：84%

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 組織的な学校運営

総合学科高校として特色ある学校づくりを推進している本校では、全教職員が総合学科高校の意義と本校設立の理念を理解しつつ教育活動を推進していくことが必要である。企画調整会議を中核とした組織的な学校運営は、効率的な業務につながり、職員会議のオンライン導入を行ったことによる会議時間短縮、ペーパーレス化も含め、ライフ・ワーク・バランスの向上にもつながった。今後は、次期学習指導要領、観点別評価の検証及び高大接続改革に向けた対応における組織的な取組のために、教科会及び研修会を通じた情報提供・情報共有を図り、本校の特色である科目登録や探究活動充実に向けた指導を踏まえ、学校全体で総合学科の特徴を十分に生かした改革と魅力発信を推進する必要がある。

(2) 特色ある教育課程の編成

課題研究（探究活動）の在り方を再度検証し、生徒個人に合った内容の検討が必要である。生徒個人の可能性を伸長するキャリア教育の更なる発展や外部と連携した様々な学習活動を通して、生徒の学習意欲を喚起するとともに地域に愛され地域に貢献できる生徒の育成に向けて教育課程の充実と精選を図る必要がある。

(3) 基礎学力の向上と可能性を広げる進路実現

本校は、基礎的・発展的な学力を高めつつ、探究の成果をもとに推薦入試や総合型選抜入試に臨ませる指導を実施してきた。今後、高大接続改革がさらに進む中、これまでよりもさらに幅広い分野と、高い難易度の進路先も大幅に増加させる必要がある。今後は卒業生のデータを詳細に分析・検討し、各種進路研修会の開催や、個々の生徒データ分析に基づいた指導を充実させ、難易度の高い推薦入試へチャレンジするための基礎的・発展的学力の向上を目指していく。

(4) 広報活動のさらなる強化

今年度、広報活動を強化し、中学校説明会において管理職と教職員とで総合学科の魅力発信を行った。また、本校での学校説明会では広報委員会を中心とし、生徒主体の学校説明会を行った。その結果、本校を第一希望とする生徒が増加し、入学選抜でも近年低倍率だったものが1倍を超える応募倍率となった。今後は近隣の塾訪問や塾対象の説明会、総合学科の特色ある授業の発信等を行い、更なる広報活動の強化が必要となる。また、総合学科10校が連携することにより総合学科の魅力発信が急務となる。

(5) 転学・退学者への対応

令和5年度入試は倍率を確保できた。細やかな生徒指導の結果、転学者7名、退学者6名と減少した。入学してきた生徒のニーズに応え、学校へ定着させながら、転学・退学者を防止する。